



読者のみなさん、こんにちは。10月を迎え急に寒くなりました。秋の深まりを感じますね。さて、今月号は、約10か月の長期留学から帰国し9月から復学した生徒の留学体験記や、9月に開催された清林祭でのランゲージセンターの展示企画や英語劇の様子を写真とともにお届けいたします。

## 留学生体験記



私が1年間アメリカで経験したのは、自分の中の普通や当たり前を覆された日々でした。言語や文化、様々な「違い」の壁にぶつかる毎日。国が違えば、言語も、文化も違うことはもちろんわかっていたのですが、それを実際に体験することで、ある大きな違いを深く実感しました。

まず、私がアメリカで生活する上で1番大切にしていたことは柔軟な考えを持つことです。違いを受け入れることは、時に簡単ではありませんでした。違いに直面するたび、自分の中の普通や当たり前という固定概念が現れてきてしまうからです。正直なところ私自身、違うことは当たり前で、言語も文化も違う人達とわかり合えることはない、はじめは諦めてしまっていました。しかしある日ホストマザーと話しているときに、「So, are you happy to be here?」と言われ、自分の身勝手さに気が付きました。自分を受け入れてくれて、家族の一員のように接してくれるホストファミリーがいるからこそ日々幸せでいられること、その感謝を口にできていなかったことに気づき、本当に反省しました。

そのときは、違いの壁にぶつかるのを恐れて、自分から無意識に周りとの線を引き、積極的になることから逃げていたのだと思います。例えば、日本の友達と価値観の違いが理由ですれ違ってしまったとき、あなたならどうしますか？私は、お互いの考えを共有した上で、相手の気持ちを受け入れたいです。

こう考えた時、言語の違いも文化の違いも関係なく、人と人が関わる上で1番大切なのは自分の気持ちを伝えることだと思いました。自分で自分の気持ちを表現しない限り、相手に気持ちが伝わることはありません。ましてや相手は、言語も文化も違う、出会ったばかりの人達で自分のことは何ひとつ知らないかもしれない。相手の気持ちを汲み取り、自分の気持ちをちゃんと言葉にする。

自分の行動1つで周りの環境は少しずつですが、変わっていきました。





私が直面した 1 番大きな壁は、宗教でした。私のホストファミリーはキリスト教を信仰しており、学校もキリスト教の学校に通っていました。授業のはじまりのお祈り、聖書の授業もあり、木曜日には学校の教会、日曜日はホストファミリー宅に近い教会に行っていました。周りの人達は幼い頃からキリスト教を信仰しているため、日本ではどんな宗教を信仰しているの？と聞かれたとき、日本でははっきりと決まった宗教はない人がほとんどだと答えた私にみんな驚いていました。馴れないことに戸惑いながらも、ホストファミリーや友達、大好きな人達の大切にしているものを私も理解したいと思い、キリスト教の勉強を頑張りました。しかしある日学校で行われた朝の礼拝で、プロテスタント派とカトリック派の間で意見の違いが生まれ、対立が起きてしまいました。大人達が口論をはじめ、友達はみんな涙を流し、授業を始められないほどに学校中がパニックになっていました。そのとき、キリスト教信者ではない私がここにいていいのだろうか、私はみんなとは違う。何もわからない。私は大きく、漠然とした恐怖を感じました。ホストファミリーや友達はみんな私を心配してくれて、みんなにもらった言葉に救われました。

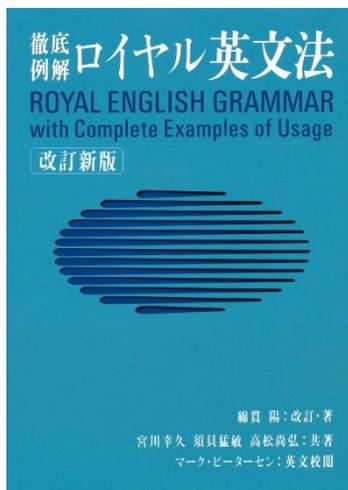
私は、アメリカで多くのことを経験し、前よりずっと強くなれたんじゃないかなと思います。辛いこともたくさんあったけど、その度に私を支えてくれた周りの人達に本当に感謝でいっぱいです。違いの壁は、ときには重くのしかかってくるものだと思います。しかし、自分の視野を広げてくれるものだと思います。違いを恐れることなく、勇気を持ち、積極的になることが、地球を生きる私たちが共に歩いていける第一歩なのだと思います。

(名古屋市守山西中学校出身 Y. K)



## 国際教育課職員 おすすめの本

気持ちの良い秋晴れの休日に、虫の音が優しく響く秋の夜長。「読書の秋」という言葉の通り、気候の良いこの時期は、ふと「そうだ、本でも読んでみようかな？」と思う人も多いかもしれません。そこで今月号では国際教育課職員からおすすめの本をご紹介します！



### [ New Edition ROYAL ENGLISH GRAMMAR ]

大塚先生のおすすめ！  
本気で英語を勉強する人向け辞書です。

特徴は用法や語法をほぼ完全に網羅しており、翻訳者などの英文を扱うプロフェッショナルにも愛用者が多いこの本は教科書や他の学習参考書ではあまり目にする事のないマニアックな用法まで解説されており、もはや文法の辞書と呼んでも良いほどの充実ぶり。

出典：<https://www.obunsha.co.jp/product/series/c065>

### [ 2023-2024 日本と世界の時事キーワード ]

森先生のおすすめ！  
世界を知るうえで最新の情報を GET できます。

日本と世界の今を、オールカラーの写真や図版を使ってわかりやすく解説。話題になった事件、言葉を取り上げ、その背景やその後などをジャンルごとにわかりやすく解説します。新聞の記事よりも理解しやすい解説を心がけています。就職や資格試験などにきっと役に立つ一冊です。



出典：[https://honto.jp/netstore/pd-book\\_32007287.html#productInformation](https://honto.jp/netstore/pd-book_32007287.html#productInformation)



### [ 星の王子さま ]

奥先生のおすすめ！  
「人間たちはもう時間がなくなりすぎて、  
ほんとうには、なにも知ることができないでいる」  
(『星の王子さま』より引用)

砂漠に不時着した飛空士が、宇宙のどこかの星からやってきた小さな王子さまと出会います。年は重ねても、どこか大人になりきれない部分を残した飛行士は、王子さまと過ごすうちに生きる上で大切なことを思い出します。しかし 2 人にも別れがやってきて……。

出典：[https://honcierge.jp/articles/shelf\\_story/6306#anchor-1620726632519](https://honcierge.jp/articles/shelf_story/6306#anchor-1620726632519)



## 清林祭 (Seirin Festival)

9/15 (金)、16 (土) に清林祭が開催されました。今年度は「infinity - 可能性は無限大 - 」というテーマでしたが、infinity はラテン語の infinitus を語源としており、in は「否定」、finitus は「終わる」、つまり「終わりが無い」という意味です。このテーマのもと、生徒全員が自らの「可能性」を信じ、クラス企画や有志企画など、多くのことにチャレンジしていました。生徒たちは高校生活という限りある時間の中で、自分たちの終わりが無い成長と無限大の可能性を実感したことと思います。また、今年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたこともあり、4年ぶりに保護者の方や中学生の入場が解禁され、活況を呈する清林祭となりました。

ESS 部のステージ企画は英語劇『SHS MUSICAL』です。今回は ESS 部の生徒にインタビューしたので、その内容を掲載します。

今年の ESS 部は、オリジナルで”SHS MUSICAL”という題名でミュージカルを上演しました。

これは Seirinkan High School MUSICAL の略で、High School MUSICAL のようなアメリカの高校をお届けしようと部員で考えました。

15 分という限られた時間で、どうしたら見に来てくださった方々を楽しませられるか考えた結果、歌とダンスをメインとして、セリフやストーリーなどすべて脚本は一から作ることに決めました。

パフォーマンスした曲は

We're all in this together (from High School Musical)、Season of Love (from RENT)

A Million Dream (from the Greatest Showman)

High School Musical (from High School Musical season3)の

4 曲で、ダンスナンバー、バラードなど幅広くパフォーマンスができることを意識して選曲しました。

このような形で英語劇を行うことは ESS 部でも初めてだったので、全員探し探りで正直本番までどうなるかわかりませんでした。そんな中で、できる限りそのときにできるベストを尽くそうと毎回練習を行いました。

本番ではハプニングもありましたが、”Show must go on”をモットーに、無事 2 日間舞台を終えることができました。

今回はディレクターに選んでいただき、一から作り上げるということでやらなければいけないことも多く、大きなプレッシャーもありましたが、部員や先生方、家族や友達を含めた観客の皆さんに助けて頂き、無事最高の舞台をつくりあげることができたと思っています。

ESS 部 ディレクター (W.T)



# SHS INTERNATIONAL LETTER OCTOBER



ランゲージセンター主催の展示企画のテーマは、「英語で遊ぼう！」  
楽しみながら英語を学べる3つのゲームが用意され、多くの生徒が教室を訪れていました。  
写真にあるゲームを1つ紹介します。体験してみてください！



## INFINITY BOGGLE

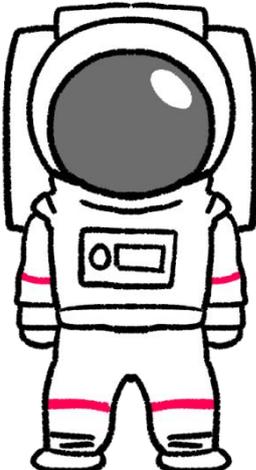
<b>B</b>	<b>E</b>	<b>S</b>	<b>H</b>
<b>L</b>	<b>A</b>	<b>T</b>	<b>E</b>
<b>P</b>	<b>I</b>	<b>R</b>	<b>S</b>
<b>S</b>	<b>E</b>	<b>N</b>	<b>G</b>

Make as many words as you can !  
できるだけ多くの単語を作ろう！

Letters must connect.  
アルファベットは隣り合っていないといけないよ

You have 2 minutes.  
制限時間は2分間

<b>S</b>	<b>E</b>	<b>T</b>	<b>S</b>
<b>P</b>	<b>I</b>	<b>R</b>	<b>D</b>
<b>L</b>	<b>A</b>	<b>N</b>	<b>E</b>
<b>S</b>	<b>E</b>	<b>T</b>	<b>S</b>



Thank you for reading to the end. Stay tuned for our next month's issue !